



心理学研究科長・社会心理学領域  
植村勝彦教授

専門：コミュニティ心理学

1969年 大阪大学大学院文学研究科修士課程修了

1975年 愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所  
社会福祉学部研究員（1986年年まで室長）

# 複雑化した現代社会に 対応できる「こころ」の スペシャリストを養成する。

心理学研究科博士課程は、本学の既設大学院の再編計画に伴って、コミュニケーション研究科心理学専攻から単一の心理学専攻として2008年（平成20年）4月に改組独立しました。現在は前期課程に1年と2年がそれぞれ20人、後期課程に1人が在籍し、以前の研究科時代から数えると、12年間で修士（前期）課程を209人、博士（後期）課程を28人が修了しています。生体情報、社会、臨床の三領域から構成され、特に臨床心理学領域は1999年に臨床心理士第二種指定大学院の認定を受け、これまで114人の合格者を送り出してきました。

## バランスの取れた 三領域から構成

**植村研究科長** 本学に初めて心理学を研究する研究科ができたのは1995年（平成7年）です（コミュニケーション研究科人間コミュニケーション専攻。2001年に心理学専攻、08年に心理学研究科心理学専攻に改組）。

現在、生体情報と社会、臨床の三つの領域がありますが、創設時から特定の領域に特化せず、バランスの取れた構成にしたいという意図がありました。他大学では臨床系しかない研究科もあります。

**後藤教授** まず心理学部自体が少ないですね。本学では今年4月から心理学部が独立しますが、愛知県で2大学目です。多くの大学は、よ

り大きな学部の一部として、心理学ないしは臨床心理学の学科やコースを置くという形を取っています。

**吉崎教授** 臨床や社会はあっても、生体情報は脳波を測定したりする高額な機材が必要なため、設置は難しいようです。

**植村研究科長** 研究科の設置当時は世紀末ということもあって、心理学がブームになりつつありました。前後して臨床心理学も注目されるようになりました。

**後藤教授** 昨年で日本心理臨床学会ができて30年、日本臨床心理士資格認定協会ができて20年になります。最近では村上龍の「13歳のハローワーク」で臨床心理士が紹介されるなど、広く一般に知られるようになりました。



**植村研究科長** 本学が日本臨床心理士資格認定協会の第一種指定大学院の認定を受けたのが99年でした。それ以前は異なる領域でも資格取得ができましたが、現在は臨床心理学領域でないと資格は取得できません。

**後藤教授** 現在、臨床心理士の資格取得者は全国で2万人弱います。県下に第一種指定大学院が9大学と増えたこともあり、愛知県の臨床心理士の数は約1200人、全国で3位です。

## 社会人学生が多く、 大学や専門学校教員も

**植村研究科長** 本研究科の特徴として、社会人が多いことが挙げられます。最近、学部学生（コミュ



左：生体情報心理学領域 前期課程1年 蔵富恵さん  
右：臨床心理学領域 後期課程1年 木村奈央さん



左：社会心理学領域 前期課程2年 加藤真弓さん  
右：臨床心理学領域 前期課程1年 斉藤和哉さん



生体情報心理学領域  
吉崎一人教授

専門：認知神経心理学  
1989年 名古屋大学大学院教育学研究科  
博士後期課程退学  
1992年 愛知淑徳大学文学部  
コミュニケーション学科講師  
1995年 名古屋大学博士（教育心理学）



臨床心理学領域  
後藤秀爾教授

専門：臨床心理学、発達障害学  
1978年 名古屋大学大学院教育学研究科  
博士後期課程満期退学  
1998年 愛知学泉大学  
コミュニティ政策学部教授

## 心理学研究科心理学専攻

### 生体情報心理学領域

生体が感覚刺激として受容する外部情報や、それらによって派生する内部情報の処理過程を、生理心理学的、認知心理学的観点から究明していきます。

### 社会心理学領域

個人の所属する集団の大きさから、小集団、組織、コミュニティ、大衆社会に分け、それぞれ対人行動論、コミュニティ心理学、文化心理学からアプローチします。

### 臨床心理学領域

悩みや不安などを抱えながら生きている現代人のさまざまな「こころ」の問題を、臨床心理学や精神病理学の立場から考察し、その早期発見と対処法を究明します。

ニケーション学部コミュニケーション心理学科。4月からは心理学部心理学科の大学院希望者を内部推薦として5人前後受け入れることになり、相対的に本学部の卒業生が増えていきますが、以前は他大学から新卒で入ってくる学生も多かったですね。また、3割強が社会人です。

**後藤教授** 臨床心理学領域では今年度は、新卒から70歳までの学生が入ってきました。70歳の方は、定年後、他大学の学部に入り、4年間経過したあとと大学の大学院へ進んだものですね。

**植村研究科長** 心理学研究科は門戸が開かれているということだと思います。私の研究室からはこれまで27人が修士課程を修了しましたが、25人が社会人でした。どんな人が学んだかという点、大学や専門学校の教員、看護師、理学療法士などが

現場で働いている人です。すでに看護師などのライセンスは持っているが、修士号や博士号を取得してキャリアアップし、昇任、昇格につなげたという方が多いですね。

**加藤さん** 私は理学療法士養成校で学生を指導していますが、やはり職場からスキルアップを求められ、修士号を取りたいと思います。入学しました。夜間に通っていますが、職場のバックアップがないと、なかなか実現は難しいですね。

**斉藤さん** 院生の年齢層が幅広く、社会経験が豊富な方が多いので、僕のように学部から上がってきた者には、心理学以外に学ぶことが多いですね。

**後藤教授** 退職後の学びの場を求める人は、これから増えるかもしれません。

**植村研究科長** 在職中は勉強したくてもできなかったのが、定年を待ってから入って来られる方がいますね。大学院は今後、定年後に学びたい人を受け入れる一つの受け皿、団塊の世代の退職後の選択肢の一つになっていくことでしょう。

**吉崎教授** 学問領域によるかもしれません。社会や臨床は自分の経験を生かせる身近な領域ですが、生体情報は「身近」からは極端に離れているので、高齢者には難しいかもしれません。

## 本学の心理学科から 内部推薦で研究科へ

**植村研究科長** 先ほどの、学部からの内部推薦ですが、蔵富さんがそうですね。希望者は定員の3倍ほどです。ですから、彼の中から選ばれた優秀な学生です。

**蔵富さん** 僕は大学入学当初は臨床志望でしたが、学んでいくうちに人について関心を持ち、また、心理学にはいろいろなアプローチの仕方があることを知りました。人の特有の機能などを調べるには、生体情報からのアプローチが自分に一番向いていると思います。生体情報を選びました。

**斉藤さん** 僕は高校の頃から臨床心理学を学びたいと思いい、大学入学後も大学院を目指して勉強していましたが、ある先生から「大学院で臨床心理学を専門的に勉強するならば、脳や社会についての知識も必要だ」と言われて、3、4年には生理認知系のゼミに入って脳の勉強をし、卒論を書きました。現在は臨床心理士を目指して、多くの場でたくさんさんの臨床経験を積みたと思っています。

**後藤教授** 木村さんは、他大学から本学の研究科に来ました。

**木村さん** 私も高校生の時から、大学では心理学を学びたいと思っていました。大学院進学を考えていた時、非常勤で来られていた後藤先生の講義を聞いて、「あ、この先生のもとで勉強したい」と思って、こちらへ進みました。

## 木村奈央さん

南山大学人文学部心理人間学科卒業。愛知淑徳大学大学院コミュニケーション研究科心理学専攻博士前期課程修了。

●研究テーマ「自閉症児の描画活動と自己イメージの発達過程」。児童期以前の発達早期の子どもたちの自己の成立過程を中心に研究を続けたい。現場の臨床実践あつてこそこの研究領域なので、心理面接や検査等が行える環境にいたいと思っています。指導教員は後藤秀爾教授。



左より、生体情報心理学領域 吉崎一人教授  
心理学研究科長・社会心理学領域 植村勝彦教授  
臨床心理学領域 後藤秀爾教授



## 齊藤和哉さん

愛知淑徳大学コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科卒業。

●研究テーマ「夜勤交替勤務環境が睡眠の質と心理面へ与える影響」。交替制の勤務環境が勤務者の心理面にどんな影響をもたらすかを、アンケートや心理検査で検証していきます。将来は臨床心理士の資格を取り、病院内のターミナルケアの現場で働きたいと思っています。指導教員は古井景教授。

心理学を学んだ人が、知識を地域で生かせる社会に。—— 植村研究科長

臨床心理学のソーシャルニーズは高く、  
今後とも確実に増えることが予想される。—— 後藤教授

整った実験設備の中、先進的な研究に取り組める。—— 吉崎教授

### 生体情報、社会、臨床

#### 特徴ある三つの領域

植村研究科長 現在、前期課程に

は1学年20人ずつ在籍しています  
が、1、2年も臨床が17人、生体情  
報が2人、社会が1人という内訳で  
す。それぞれの領域の特徴ですが、  
まず生体情報心理学領域は、  
吉崎教授 まず設備が整っている  
ことです。当初から、脳波を測定し  
たり感覚遮断実験を行える部屋が  
ありました。これだけの設備がある  
のはこの地区では本学と名古屋大  
学くらいです。完全ではありません  
が、今も少しずつ充実していってま  
す。

蔵富さん 設備的に同じ実験室が

4部屋ほどあるので、同じ環境で統  
制する必要がある認知実験では、大  
変はかどります。中枢神経系だけ  
でなく、自律神経系にもアプローチ  
できる多くの機材が用意されてい  
ます。

植村研究科長 社会心理学領域は  
それほど特別な特徴というものは

ありませんが、教員の専門である対  
人行動学、コミュニティ心理学、文化  
心理学から、社会に対してアプロ  
チできることでしょうか。

加藤さん 私は「考える」というこ  
とについて関心があり、それをテーマ  
にしている先生を探していて斎藤和  
志先生に出会い、こちらに入りたく  
と思えました。社会心理学だけでな  
く、生体情報、臨床と幅広く心理  
学を勉強できることが魅力ですね。

植村研究科長 臨床心理学領域の  
特徴は、  
後藤教授 中高生が心理学に初め  
て出会うのはスクールカウンセラー  
です。そのため、スクールカウンセ  
ラーのイメージで心理学を学びたい、  
つまり臨床心理士を目指す学生が  
多いようです。実際、これまで多く  
の修了生が臨床心理士になる夢を  
かなえてきました。

臨床心理士試験の合格率は  
最近5年間だと94%

植村研究科長 実際に臨床心理士  
試験に合格した修了生ですが、98年

から08年までの11年間で114人出  
ています。この期間に臨床心理学領  
域を修了した院生は124人いま  
すから、合格率は91%。最近5年間  
に限ると、臨床心理学領域修了者  
67人中63人が合格。94%の合格率  
です。

後藤教授 修了後1年で合格する  
人が6〜7割。もう1年頑張つて9  
割が合格しています。合格率の全国  
平均は6割なので、かなり高い数字  
だといえるでしょう。

この大きな要因は、本学の心理臨  
床相談室へいろいろなケースの相談  
者が数多く訪れるので、院生は1人  
で少なくとも3、4ケース受け持つ  
ことになるためです。責任を果たす  
ために必死になって取り組むので、  
実践的な学習ができます。他大学  
だと、一つのケースを3人ぐらいで受  
け持つこともあるようです。

植村研究科長 昨年、大学基準協  
会(大学の認証評価を行う財団法人)の審  
査を受けましたが、本学の臨床心  
理学領域の研究環境は大変優れて  
いると、A評価をいただきました。

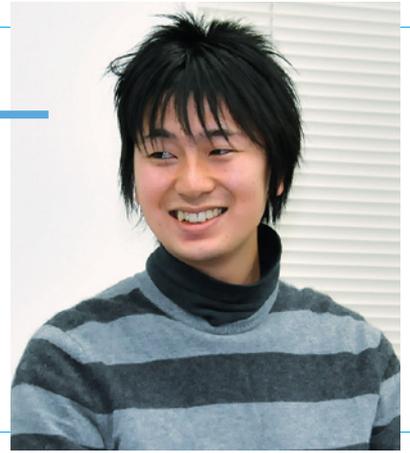
## 心理学研究科

生体情報心理学領域 前期課程1年

### 蔵富 恵さん

愛知淑徳大学コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科卒業。

●研究テーマ「選択的注意における認知的制御」。普段の生活の中で、人間が効率的に問題に取り組むための方略を調節する能力(認知的制御)を解明できたらと思います。日本だけでなく海外の研究機関で最先端の研究を行うのが夢です。指導教員は吉崎一人教授。



社会心理学領域 前期課程2年

### 加藤真弓さん

愛知医療学院卒業後、理学療法士として臨床現場に勤務。その後、理学療法士養成校に教員として務めながら、人間総合科学大学人間総合科学部人間科学科(通信制)を卒業。

●研究テーマ「日常的な思考の特徴と論理的思考との関連性」。理学療法教育をする中で出会ったクリティカルシンキング(批判的思考)について深く学び、学生教育に生かしていきたいと思っています。指導教員は高藤和志教授。



愛知淑徳大学クリニックから紹介されて来る相談者も多く、珍しいケースを扱えることもあり、臨床心理士を目指す院生にとっては恵まれた環境だと思っています。

**高藤さん** 実習の場が多いというのは、先生からの指導の機会も増えるので、学生にとって格好の勉強の機会になります。

**木村さん** 相談室のケースなど、実践を積む環境が整っているのは、とてもいいと思います。

### 修了後は臨床心理士、大学教員、研究所職員などに

**植村研究科長** 心理学研究科修了後の進路ですが、これまでの12年間で前期課程209人が修了しました。臨床心理士の資格取得をした人は、スクールカウンセラーや病院の臨床心理士をしていると思います。非臨床系の修了者は83人いますが、かなりの人が後期課程に進んでいます。特に生体情報では、まず博士に進みますね。それと現職の教員や看護師、理学療法士の方などは職場へ復帰されます。

**蔵富さん** 僕も博士課程へ進んで研究者を目指したいと思っています。

**加藤さん** 私はこの3月に前期課程を終えたあと、1年間仕事の中で前期課程で学んだことを振り返り実践し、その後後期課程に進むことも考えています。

**植村研究科長** そうですね、大学

や専門学校の先生方は、加藤さんのように前期課程修了後1、2年して、やはり学び足りないと感じて後期課程に入ってくる方が多いようです。

博士号取得者は、現在までに課程博士4人、論文博士1人が出ており、審査中も現在、3名います。後期課程修了者ですが、2003年から09年までに25人が満期退学し、そのうち12人がもともとと大学、専門学校で教員でした。新規に大学教員になった人が2人、研究所の研究員に2人、大学職員に2人、臨床心理士に1人がなっています。

**木村さん** 私はすでに臨床心理士資格は取得したので、現在は非常勤で心療内科やスクールカウンセラーとして心理臨床業務をしています。しかし研究を続けたいという思いが強くて後期課程に進んだので、将来は研究職に就きたいと思っています。

### 心理学は今後、ますます必要性が高まる分野

**植村研究科長** それでは、心理学や心理学研究科の将来について、思うことを教えてください。

**吉崎教授** 生体情報心理学で言うところ、人間の認知機能を探ると言っても、実際はそう簡単ではありませぬ。ただ、そういう夢のようなものを常に頭に描き、新しいものを見つけていくという気持ちでいいかな、とは思っています。

**後藤教授** 現在、日本では年間

3万人が自殺しており、その大半が鬱だといわれています。また、学校に在籍している子どもたちの2%が高機能自閉症、同じく2%が不登校だと言われています。その周辺で不登校気分だったり、さまざまな問題を抱えている子どもが10~20%もいるとされますが、これだけの子どもたちを愛知県内にいる12000人の臨床心理士と何十人かの精神科医で見っていくことは不可能でしょう。

対応するためには、臨床心理士をベースにいろいろな人たちの力を合わせてチームを組むことが必要で、臨床心理学を始め、さまざまな分野でソーシャルニーズはとて多く、今後も確実に増えていくことが見込まれます。

**植村研究科長** 確かにそうですね。精神的に病んでいる人、問題を抱えている人に対処できるような資格を持つ人は圧倒的に少ないのが現状です。心理学の専門家しか問題を扱ってはいけない、ライセンスを持つ人しか相談に乗ってはいけないと限定するのはなく、専門家以外でも問題に対処できるような方がいいと思います。

学部と研究科で心理学を学んだ人が、地域で問題を抱えている人にまず最初に関わり、知識を生かして対処していく。そして、手に負えない場合には専門家につなぐ。そんな社会になることが、人が幸福になる近道ではないかと思っています。